

第2章 都市構造の分析と課題

立地適正化計画により解決すべき課題を抽出するため、人口、土地利用、都市機能（サービス施設）、交通、都市構造評価について分析を行う。

分析項目	分析内容	ページ番号
1. 人口の分析	総人口の推移	29
	年少人口（14歳以下）の推移	33
	生産年齢人口（15歳～64歳）の推移	35
	老年人口（65歳以上）の推移	37
2. 土地利用の分析	人口集中地区（DID）	39
	用途地域	40
	土砂災害危険箇所	41
	津波浸水想定区域	42
	洪水浸水想定区域	43
3. 都市機能の分析 （生活サービス施設）	商業施設（スーパー等）	44
	医療施設（病院・診療所）	45
	高齢者福祉施設（入所施設等）	46
	子育て関連施設 （保育園、幼稚園、子育て支援センター等）	47
	教育施設（小学校、中学校）	48
	文化施設（集会所等（市民センター、公民館・集会施設）、役所・出張所等）	49
4. 交通の分析	鉄道駅・バス停	50
	バス路線とバスの運行本数（平日）	51
5. 都市構造評価	県内市町との比較による偏差値レーダーチャート	52

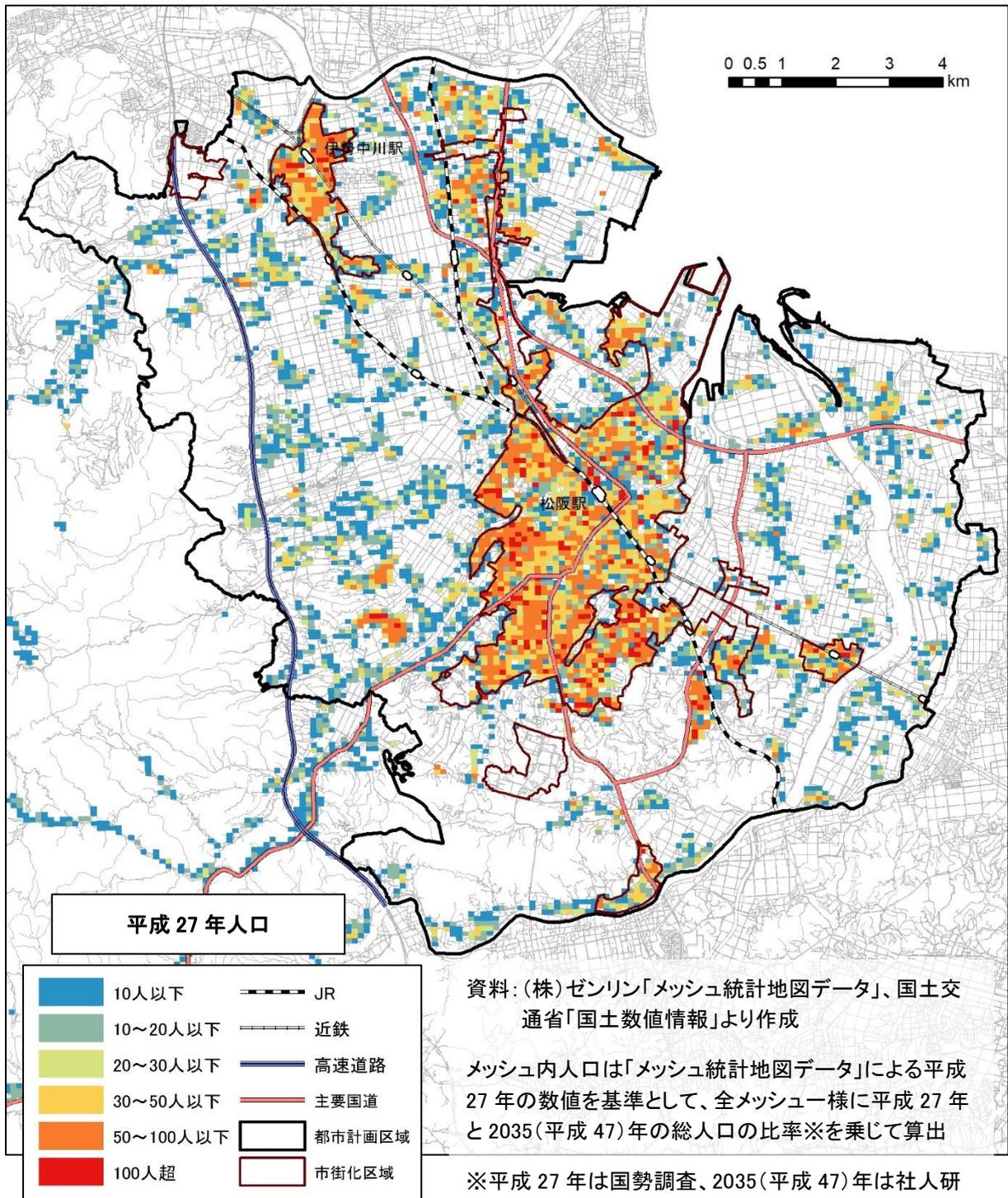
※国土数値情報の各項目は最新データにより分析を行っている

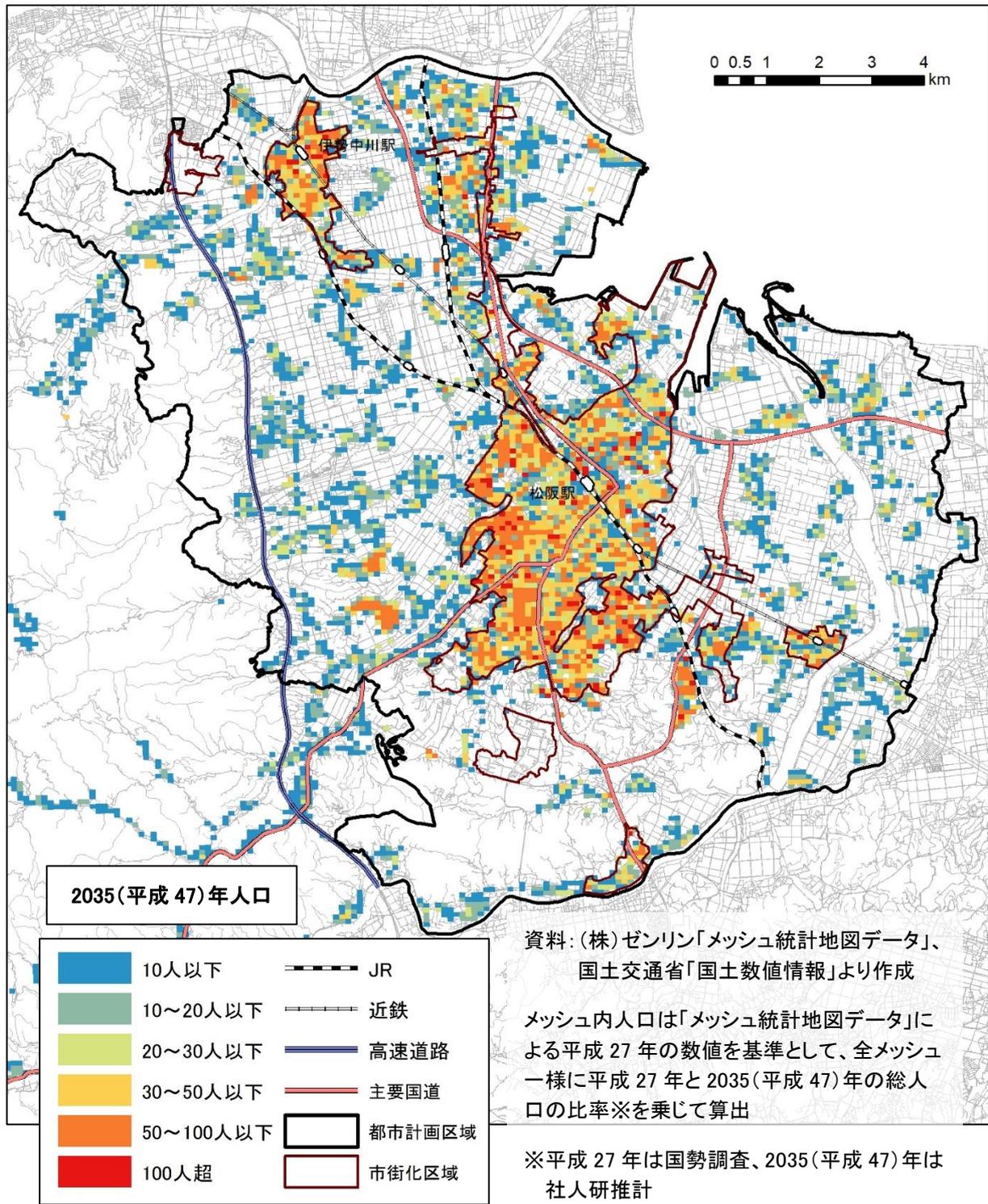
1. 人口の分析

(1) 総人口の推移

① 100mメッシュ人口

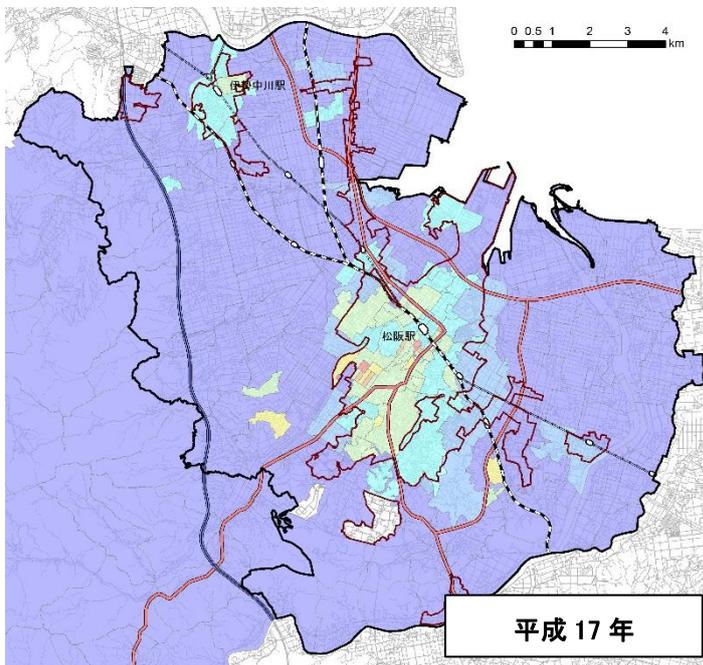
平成 27 年から 2035 (平成 47) 年の動向をみると、2035 (平成 47) 年において、松阪駅及び伊勢中川駅周辺の市街地等で 100 人を超える地域が 100 人以下になるなど、全体的に減少が進むことが見込まれる。



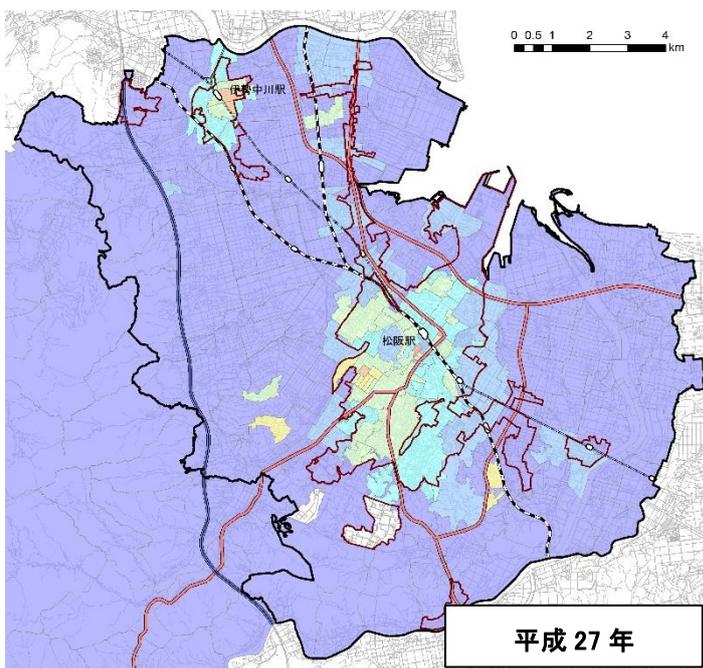


② 小地域別人口密度

- 平成 17 年において、人口密度 40～60 人/ha の地域は松阪駅周辺の市街地に多くみられ、特に駅西側の市街化区域外縁部に広く分布している。
- 平成 27 年において、松阪駅周辺の市街地では大きな変化はみられないが、伊勢中川駅東側では人口密度 80 人/ha を超える地域がみられる。
- 2025（平成 37）年において、松阪駅西側市街化区域外縁部や伊勢中川駅周辺では人口密度 40～60 人/ha が維持されている。
- 2035（平成 47）年において、松阪駅西側市街化区域外縁部の人口密度は低下し、20～40 人/ha の地域が多くなっている。松阪駅を中心市街地及び伊勢中川駅西側では、20 人/ha 未満が多くなっている。

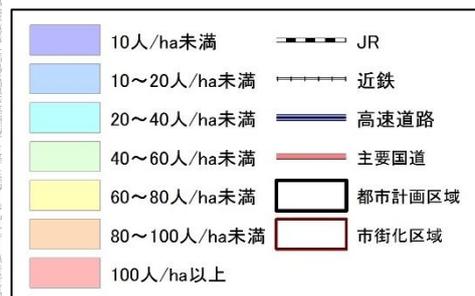


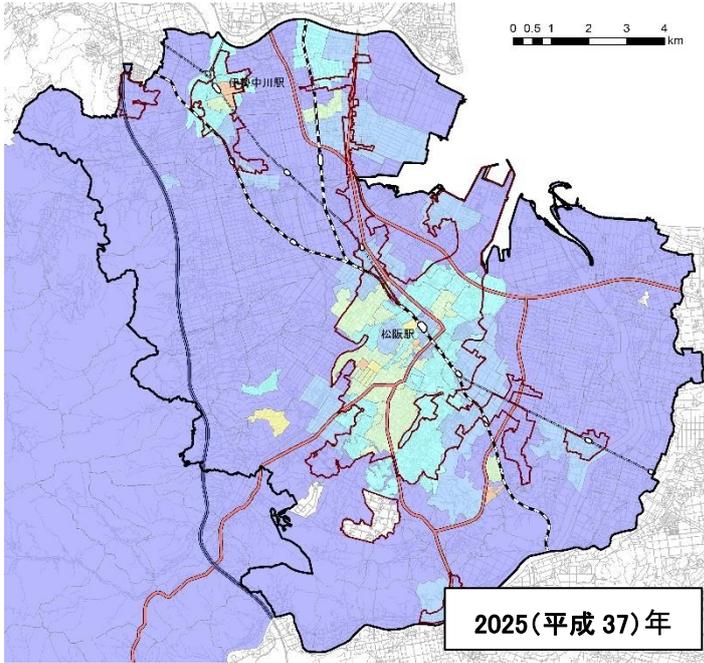
資料：総務省「地図で見る統計（統計 GIS）」、国土交通省「国土数値情報」より作成



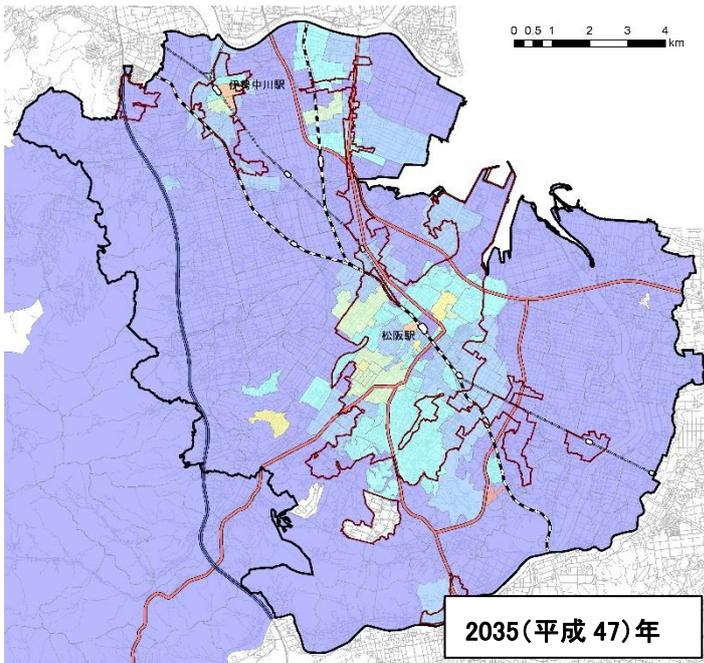
※空白は人口が0の地域
 ※提供されている小地域の区画は年により異なるが、比較のためになるべく同一となるよう、複数区画を合算して人口密度を算出し調整している

※伊勢中川駅周辺は、嬉野中川町、嬉野野田町の区分



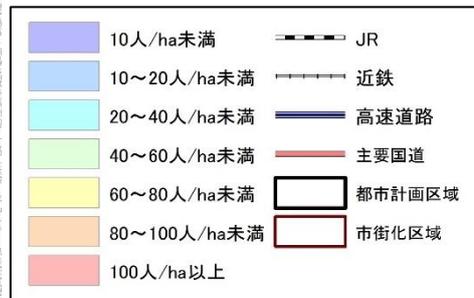


資料:総務省「地図で見る統計(統計 GIS)」、国土交通省「国土数値情報」より作成



※空白は人口が0の地域
 ※提供されている小地域の区画は年により異なるが、比較のためになるべく同一となるよう、複数区画を合算して人口密度を算出し調整している

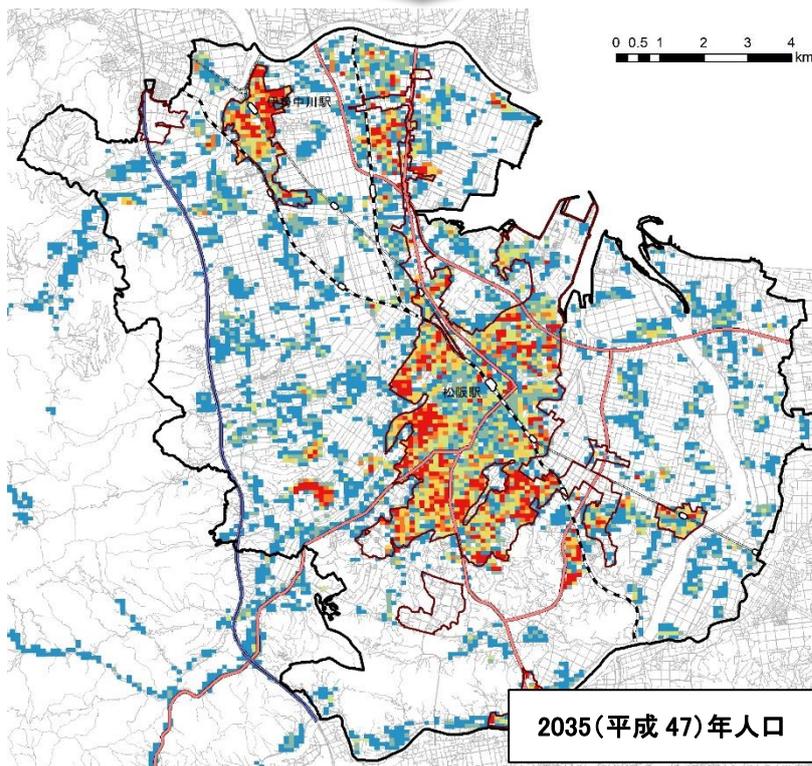
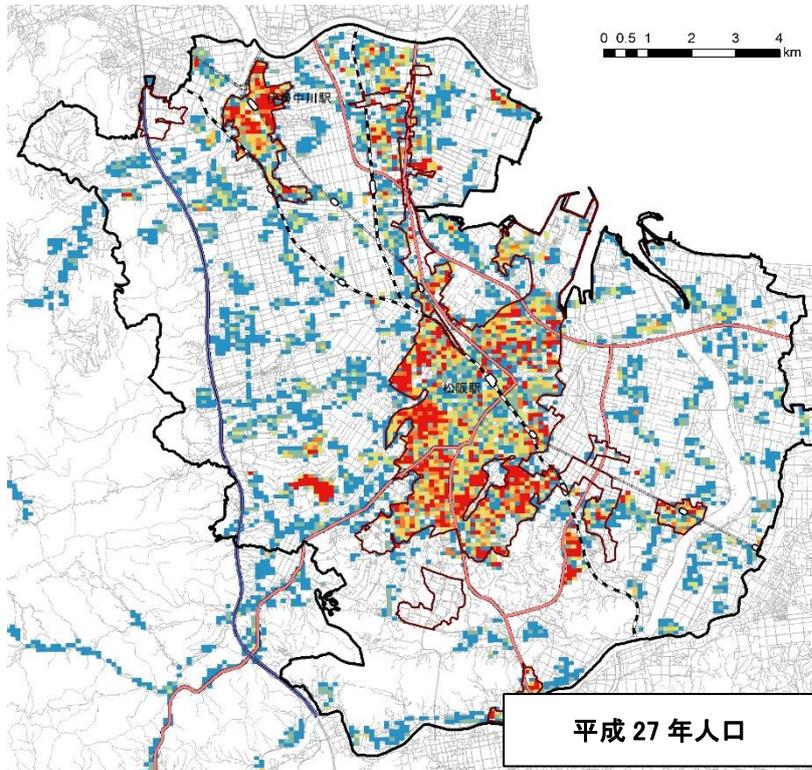
※伊勢中川駅周辺は、嬉野中川町、嬉野野田町の区分



(2) 年少人口（14歳以下）の推移

① 100mメッシュ人口（平成27年→2035(平成47)年）

平成27年から2035(平成47)年の動向をみると、年少人口（14歳以下）は、2035(平成47)年において、松阪駅西側市街化区域の外縁部や伊勢中川駅周辺の市街地で、著しい減少が見込まれる。



資料:

(株)ゼンリン「メッシュ統計地図データ」、国土交通省「国土数値情報」より作成

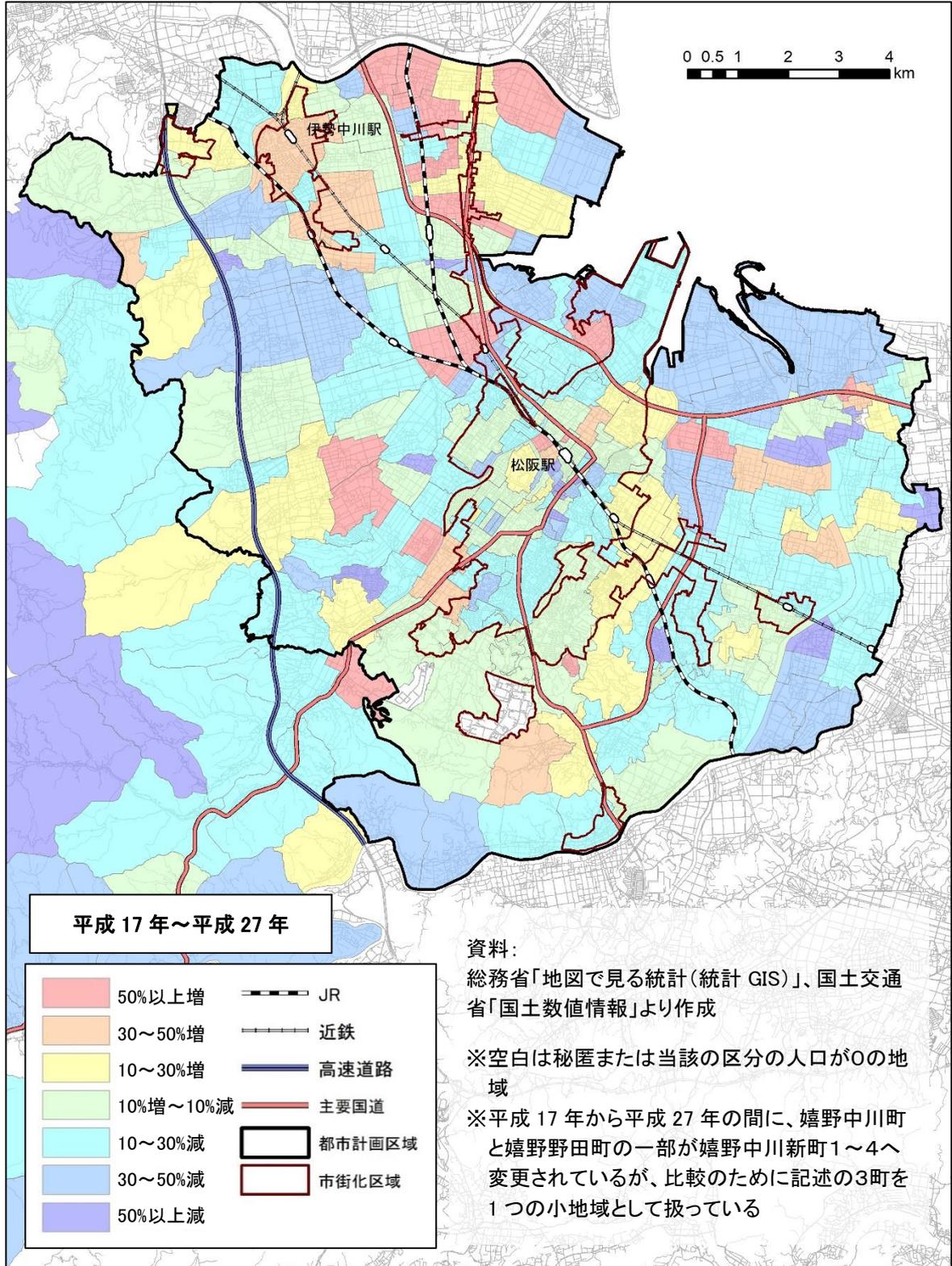
メッシュ内人口は「メッシュ統計地図データ」による平成27年の数値を基準として、全メッシュ一様に平成27年と2035(平成47)年の総人口の比率※を乗じて算出

※平成27年は国勢調査、2035(平成47)年は社人研推計



② 小地域別年少人口の増減率（平成 17 年～平成 27 年）

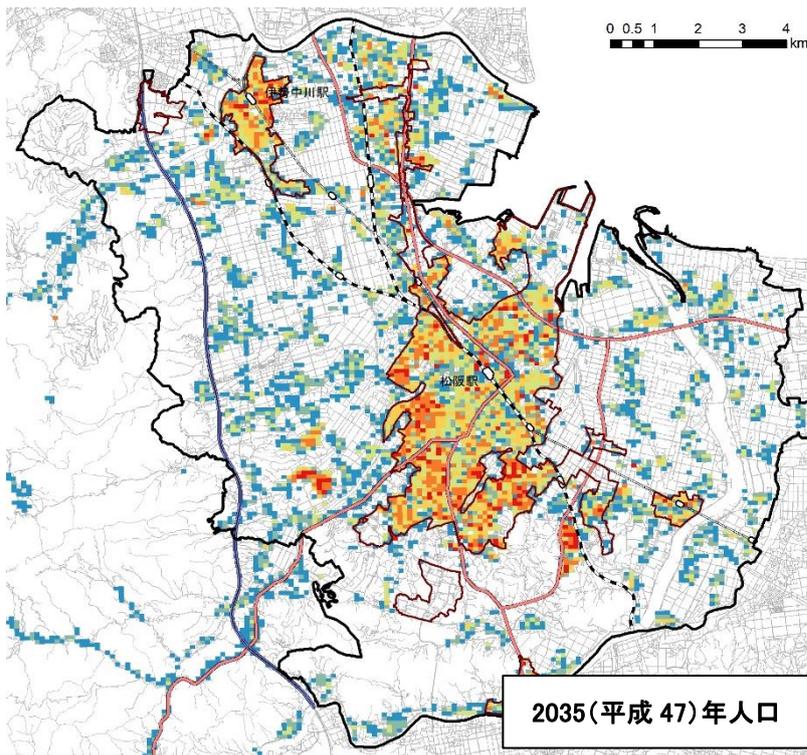
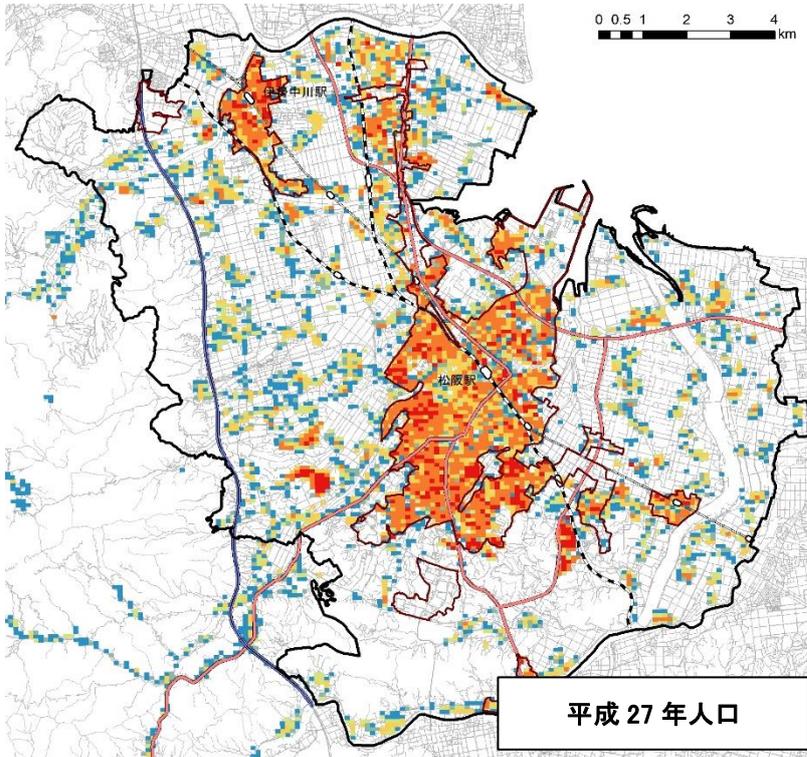
平成 17 年～平成 27 年の年少人口の増減率は、伊勢中川駅周辺、三雲管内の国道 23 号及び（都）中勢バイパスに挟まれた区域周辺などで増加率が高く、松阪駅周辺では横ばい若しくは減少の地域が多くなっている。



(3) 生産年齢人口（15歳～64歳）の推移

① 100mメッシュ人口（平成27年→2035（平成47）年）

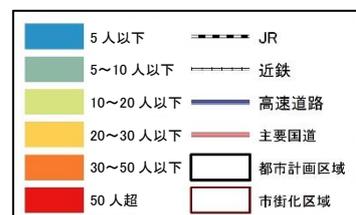
平成27年～2035（平成47）年の動向をみると、生産年齢人口（15歳～64歳）は、2035（平成47）年において、松阪駅西側市街化区域の外縁部や伊勢中川駅周辺の市街地等で、著しい減少が見込まれる。



資料：
 (株)ゼンリン「メッシュ統計地図データ」、国土交通省「国土数値情報」より作成

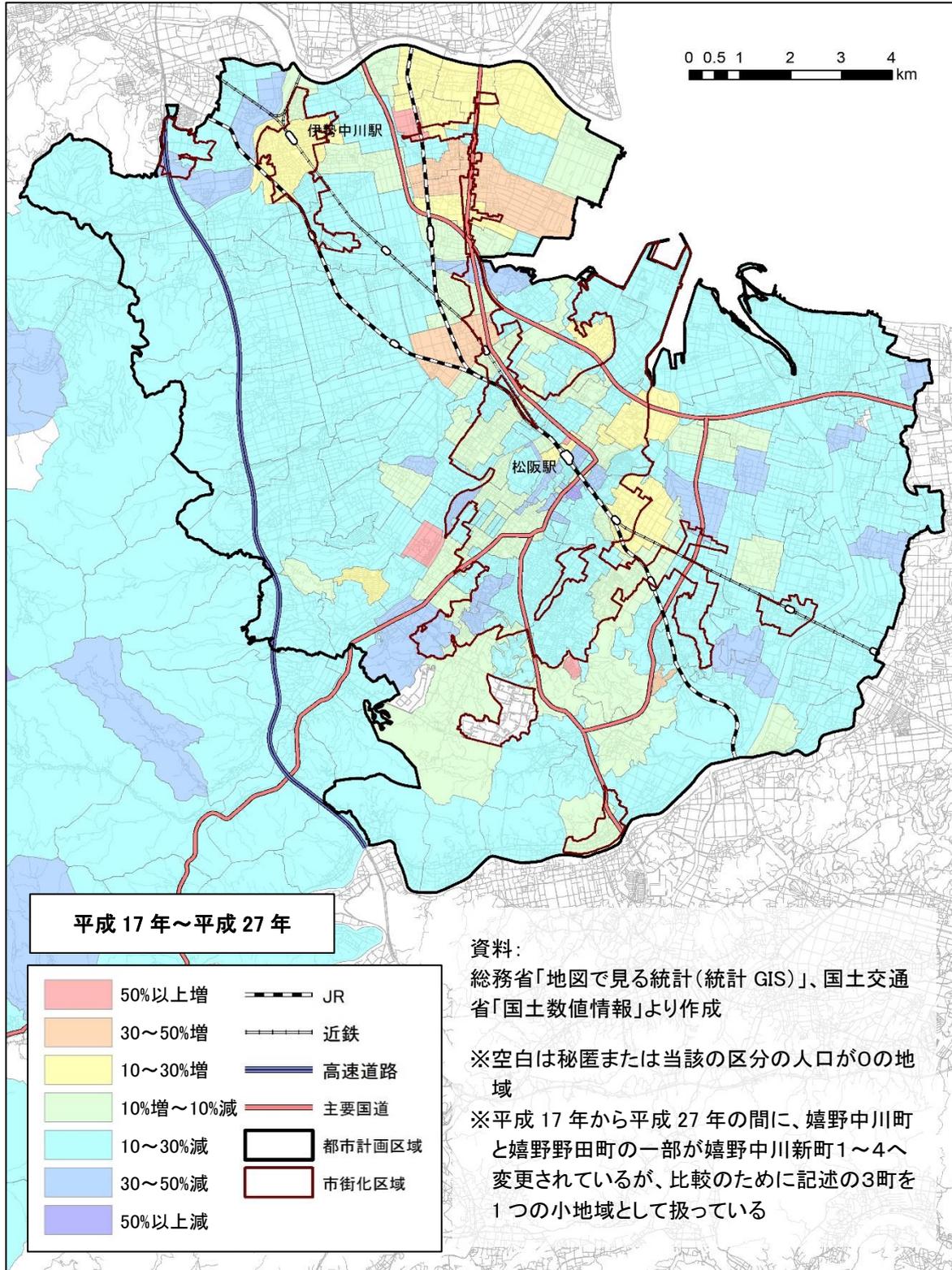
メッシュ内人口は「メッシュ統計地図データ」による平成27年の数値を基準として、全メッシュ一様に平成27年と2035(平成47)年の総人口の比率※を乗じて算出

※平成27年は国勢調査、2035(平成47)年は社人研推計



② 小地域別生産年齢人口の増減率（平成 17 年～平成 27 年）

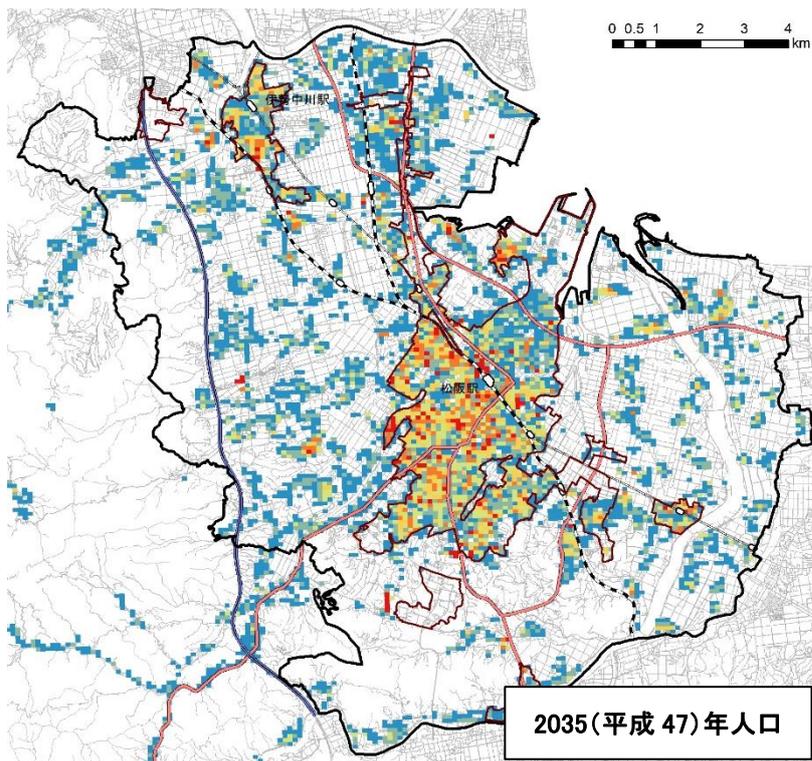
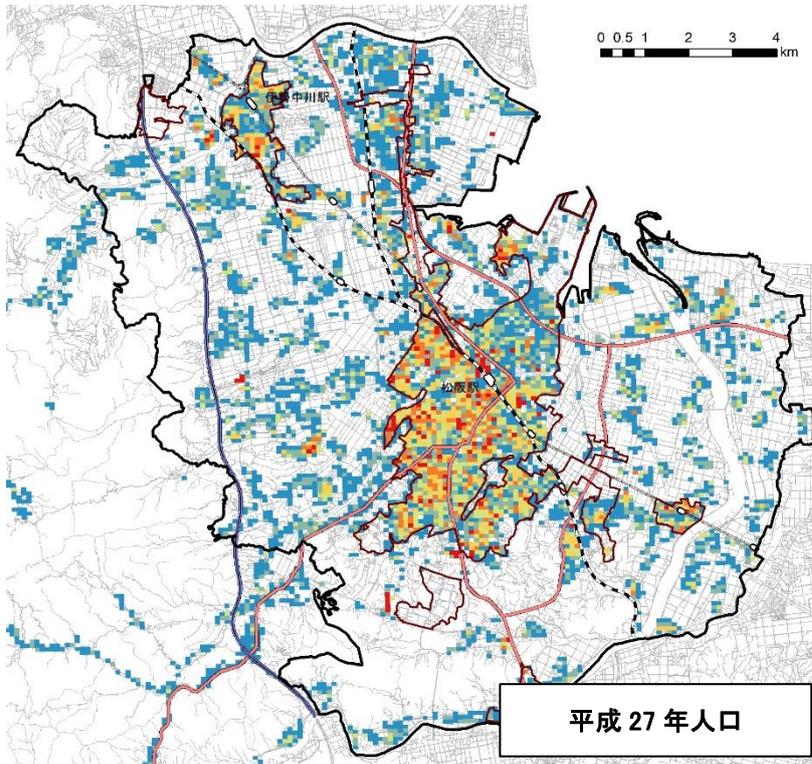
平成 17 年～平成 27 年の生産年齢人口の増減率は、伊勢中川駅周辺、三雲管内の国道 23 号及び（都）中勢バイパスの間の区域周辺などで増加率が高く、松阪駅周辺では減少の地域が多くなっている。



(4) 老年人口（65歳以上）の推移

① 100mメッシュ人口（平成27年→2035（平成47）年）

平成27年～2035（平成47）年の動向をみると、老年人口（65歳以上）は、2035（平成47）年において、特に松阪駅周辺南側で分布が拡大していくことが見込まれる。

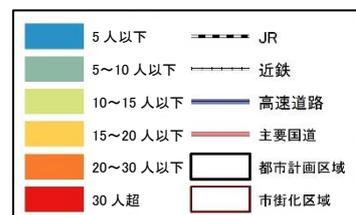


資料：

(株)ゼンリン「メッシュ統計地図データ」、国土交通省「国土数値情報」より作成

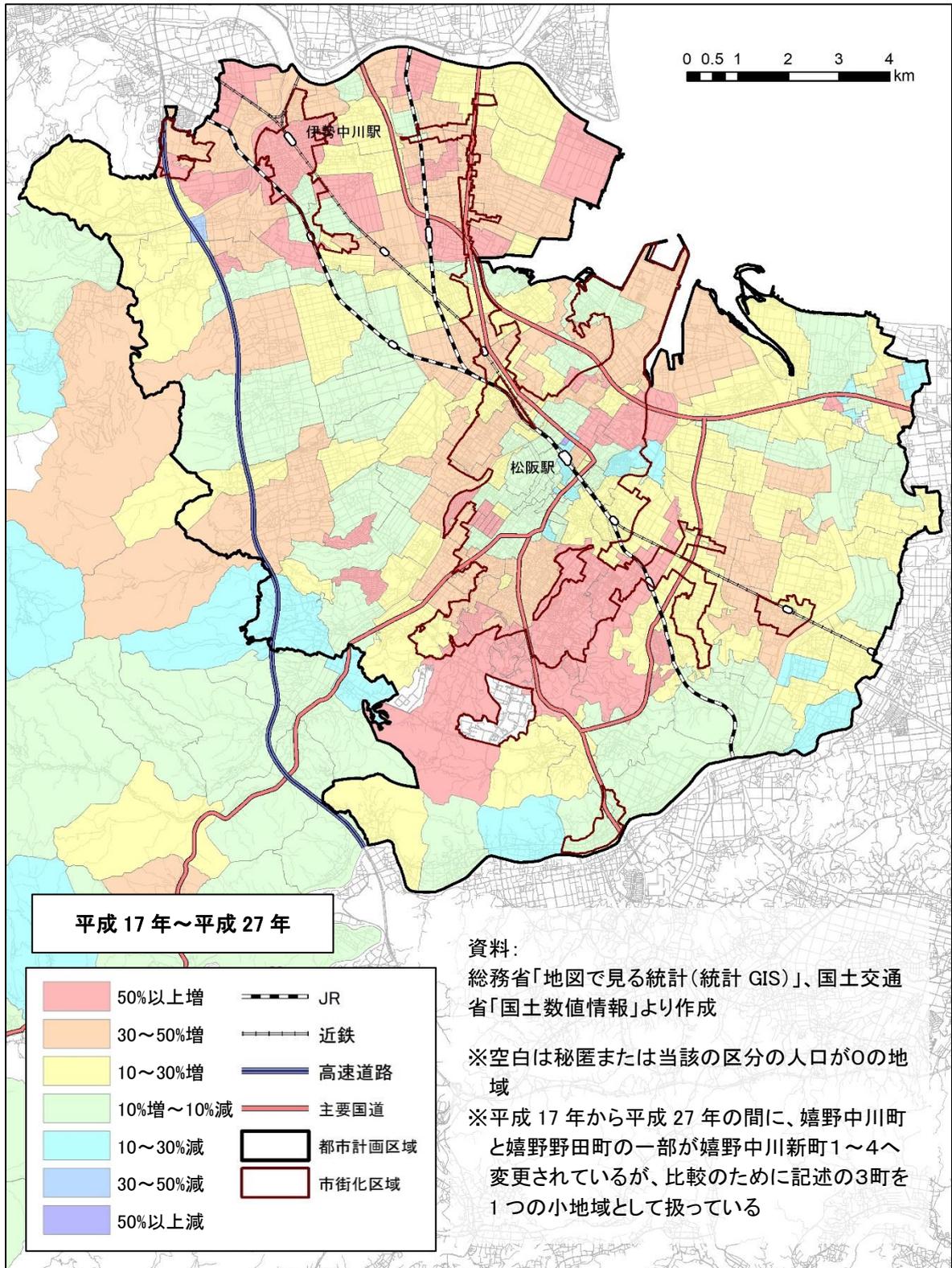
メッシュ内人口は「メッシュ統計地図データ」による平成27年の数値を基準として、全メッシュ様に平成27年と2035（平成47）年の総人口の比率※を乗じて算出

※平成27年は国勢調査、2035（平成47）年は社人研推計



② 小地域別老年人口の増減率（平成 17 年～平成 27 年）

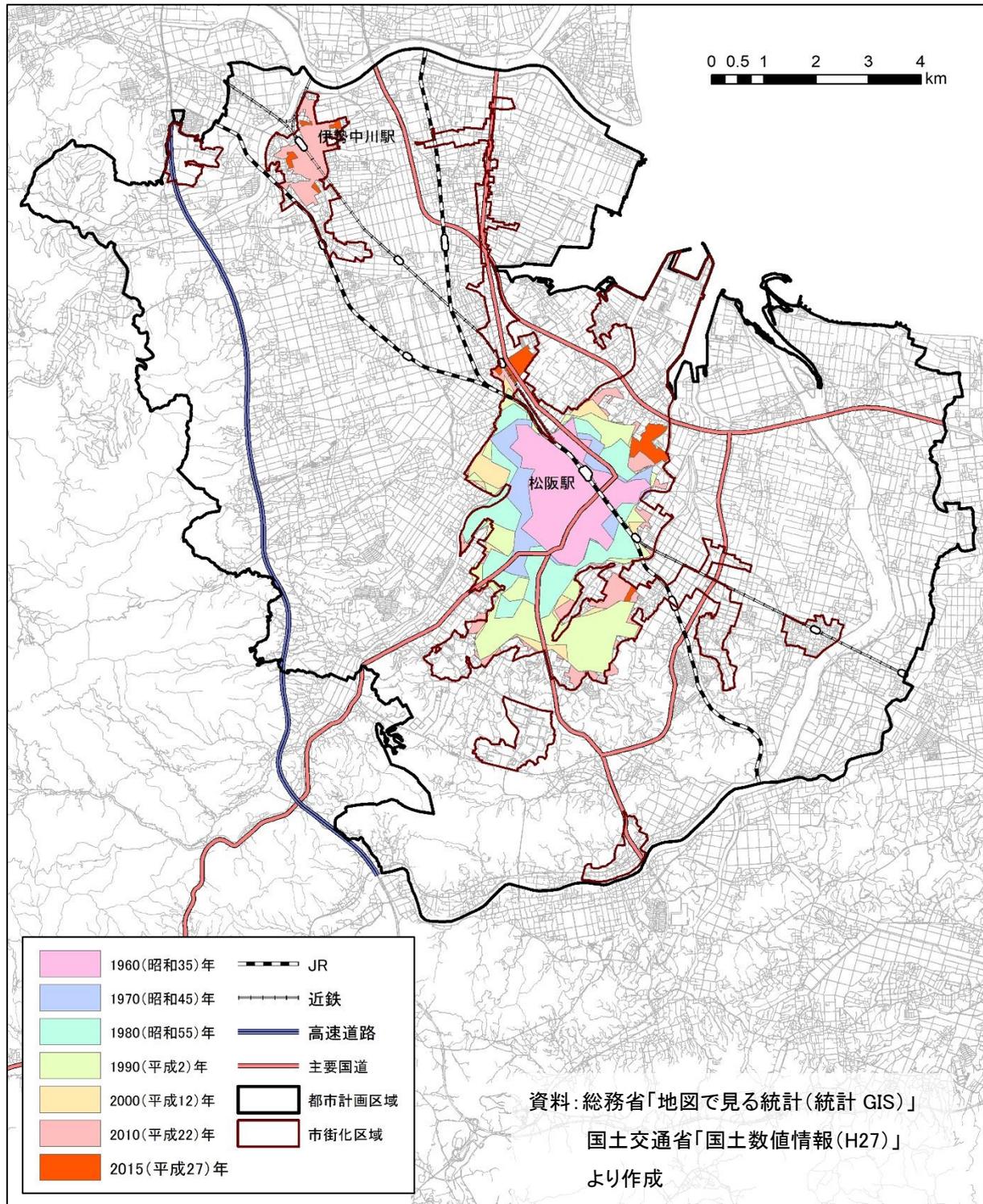
平成 17 年～平成 27 年の老年人口の増減率は、松阪駅西側の市街化区域外縁部や伊勢中川駅周辺、三雲管内の国道 23 号及び（都）中勢バイパスの間の区域周辺などで増加率が高くなっている。



2. 土地利用の分析

① 人口集中地区 (DID)

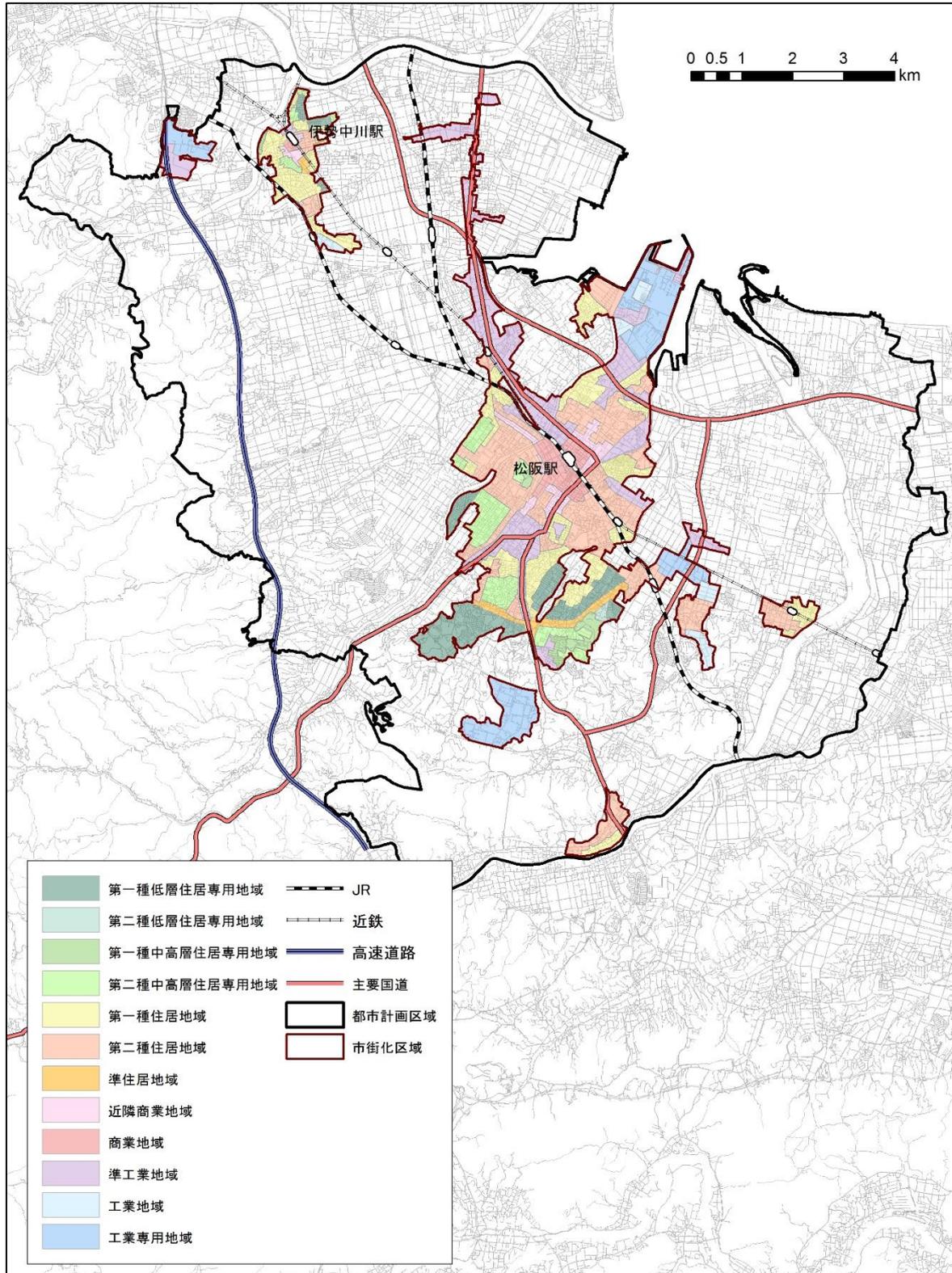
人口集中地区 (DID) は昭和 35 年に松阪駅周辺で設定され、その後当該市街地の南側で拡大が進み、平成 22 年では伊勢中川駅周辺、平成 27 年では松阪駅東側及び伊勢中川駅西側などで拡大している。



人口集中地区(DID)変遷図

② 用途地域

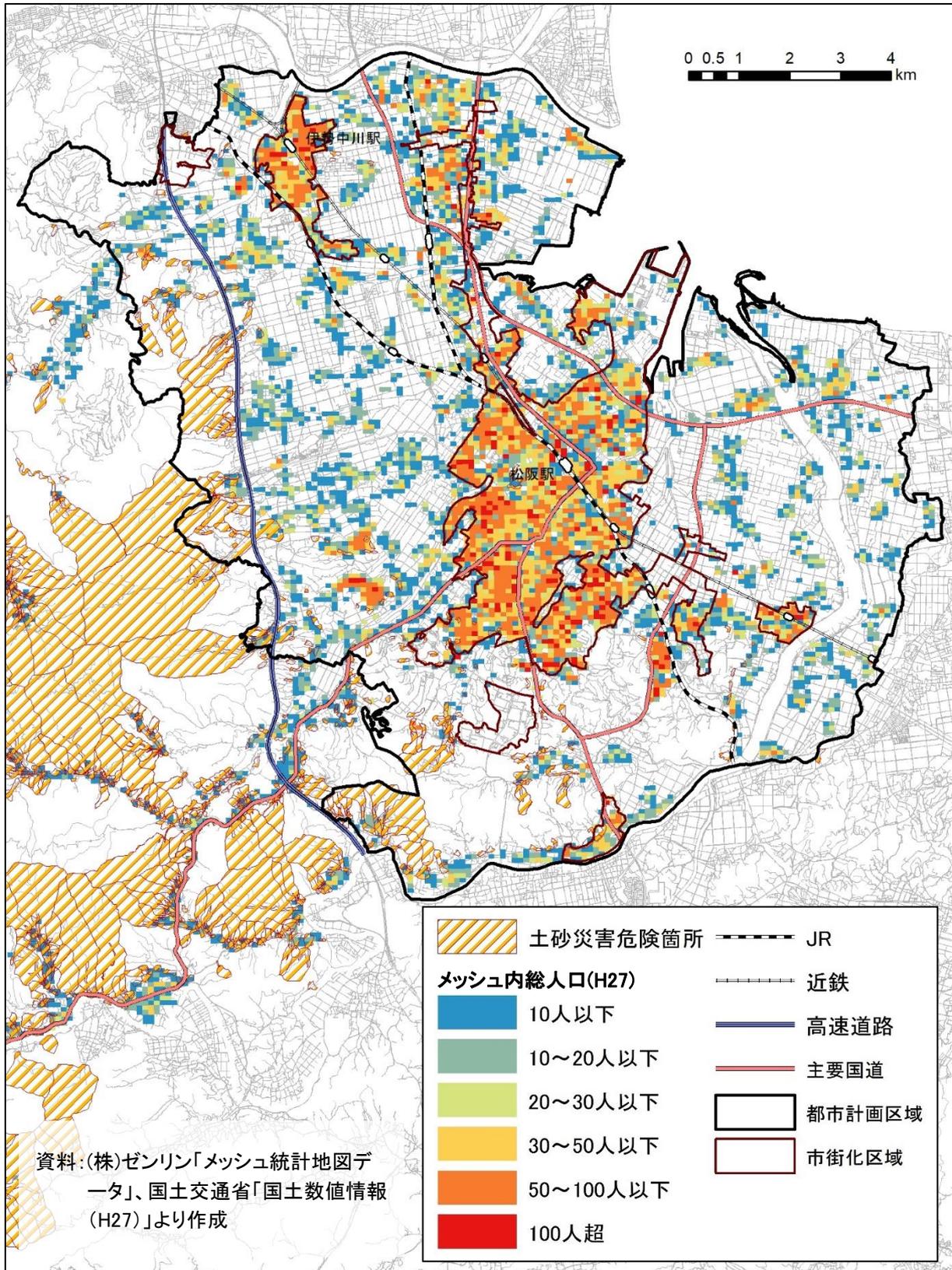
商業系用途地域は鉄道駅周辺に指定し、工業系用途地域は、幹線道路沿道を中心に準工業地域、沿岸部や近畿自動車道伊勢線周辺等に工業専用地域・工業地域を指定している。住居系用途地域は鉄道駅周辺等に広く指定している。



用途地域図

③ 土砂災害危険箇所

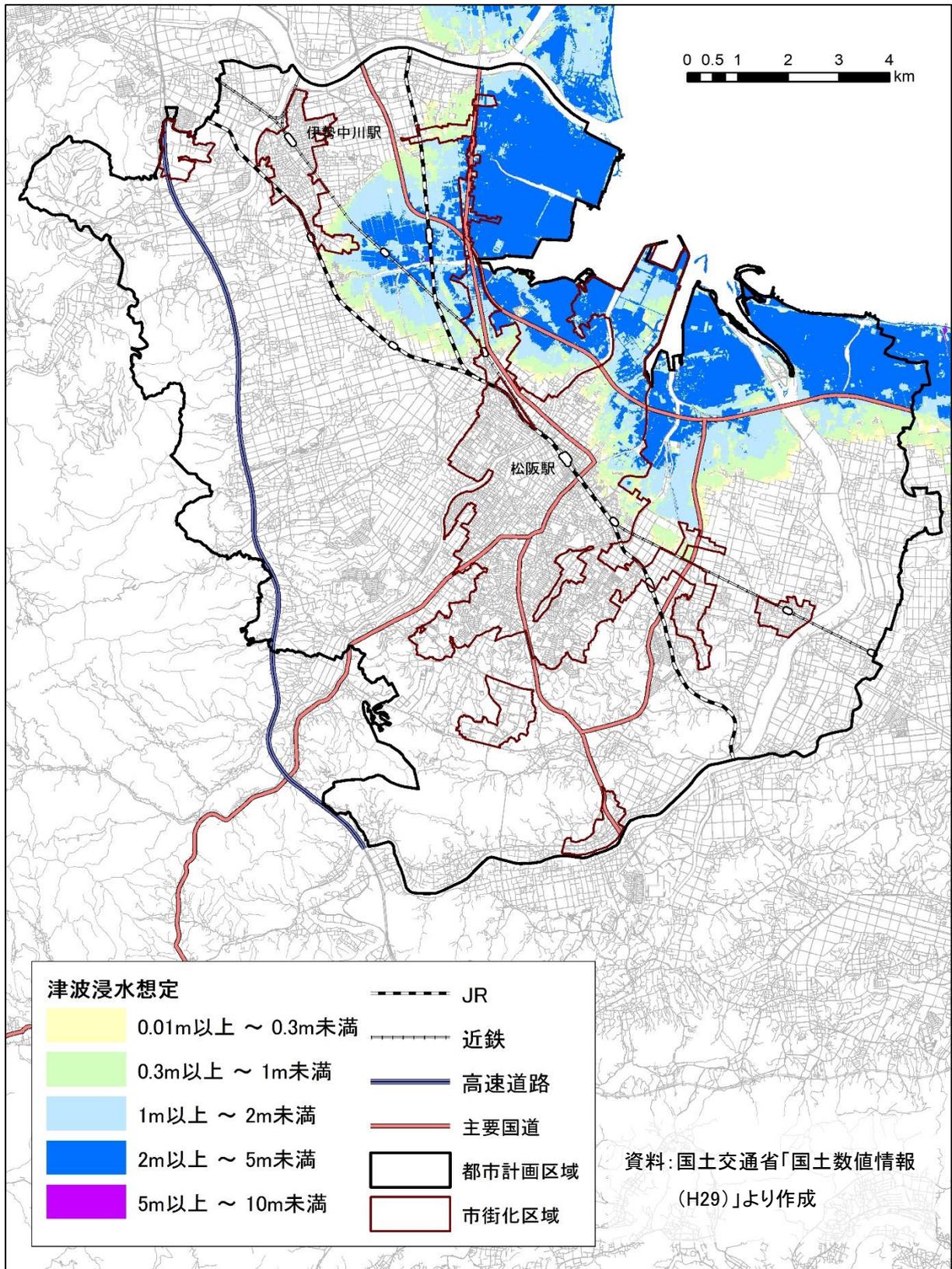
土砂災害危険箇所は、都市計画区域との境界部や南部の山地部に指定されており、市街化区域内では一部に指定されている。



土砂災害危険箇所図

④ 津波浸水想定区域

津波浸水想定区域は、木造家屋が全壊する割合が大きくなる2.0m以上の浸水深の区域が、市街化区域内に一部含まれている。

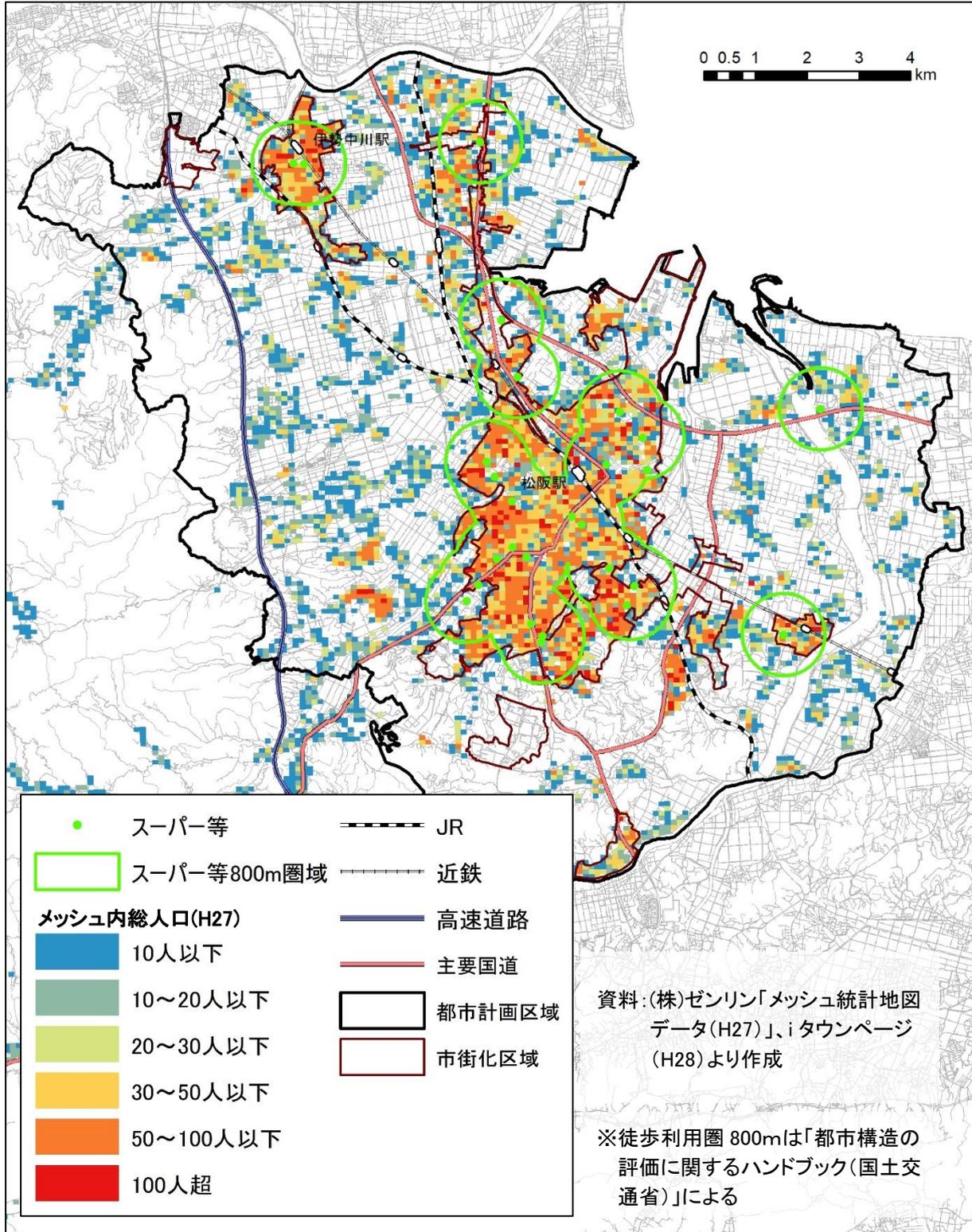


津波浸水想定区域図

3. 都市機能（生活サービス施設）の分析

① 商業施設（スーパー等）

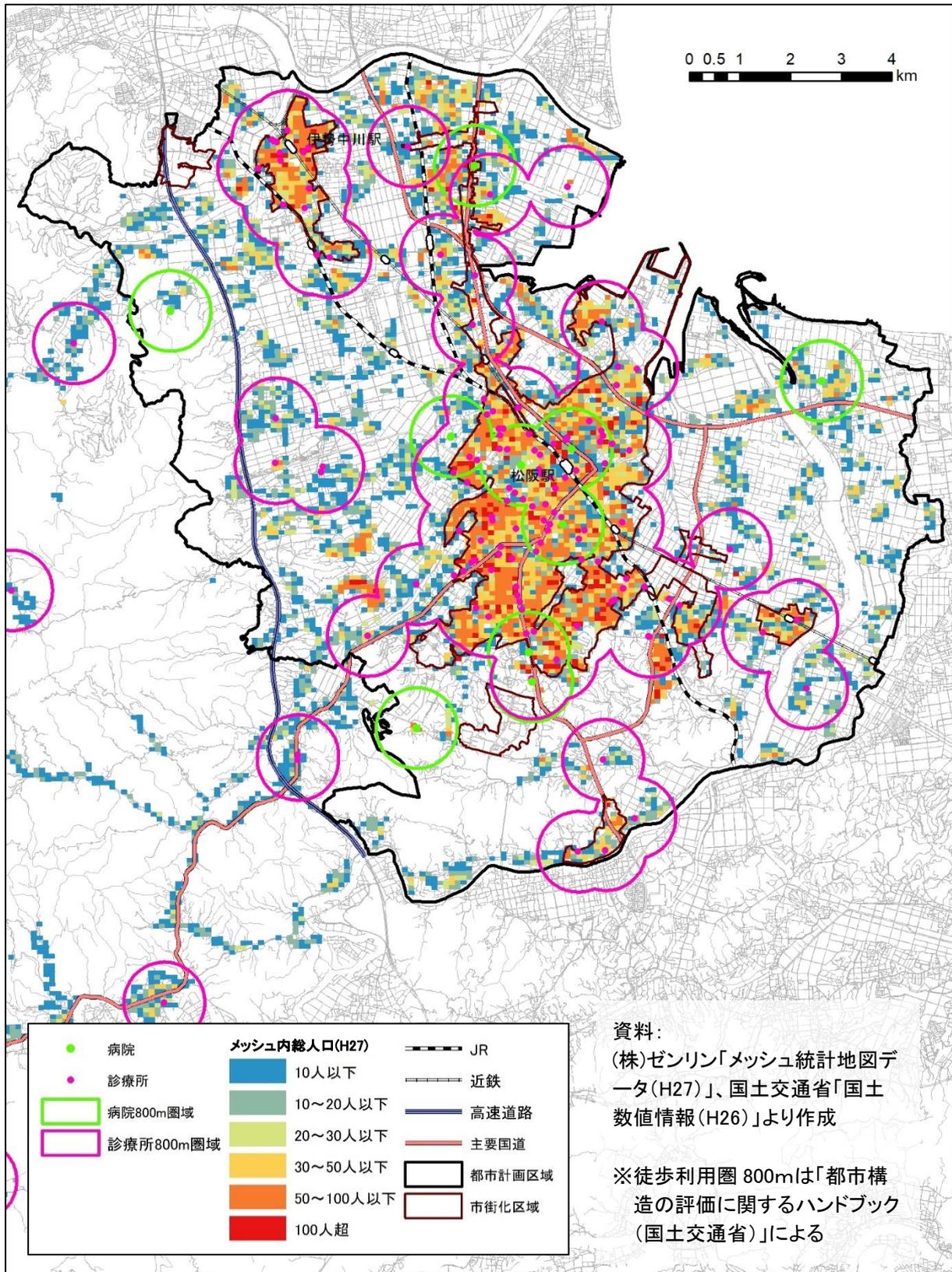
商業施設（スーパー等）は、概ね徒歩圏でカバーされているものの、カバーされていない地域もみられる。



商業施設（スーパー等）及び徒歩利用圏域図

② 医療施設（病院・診療所）

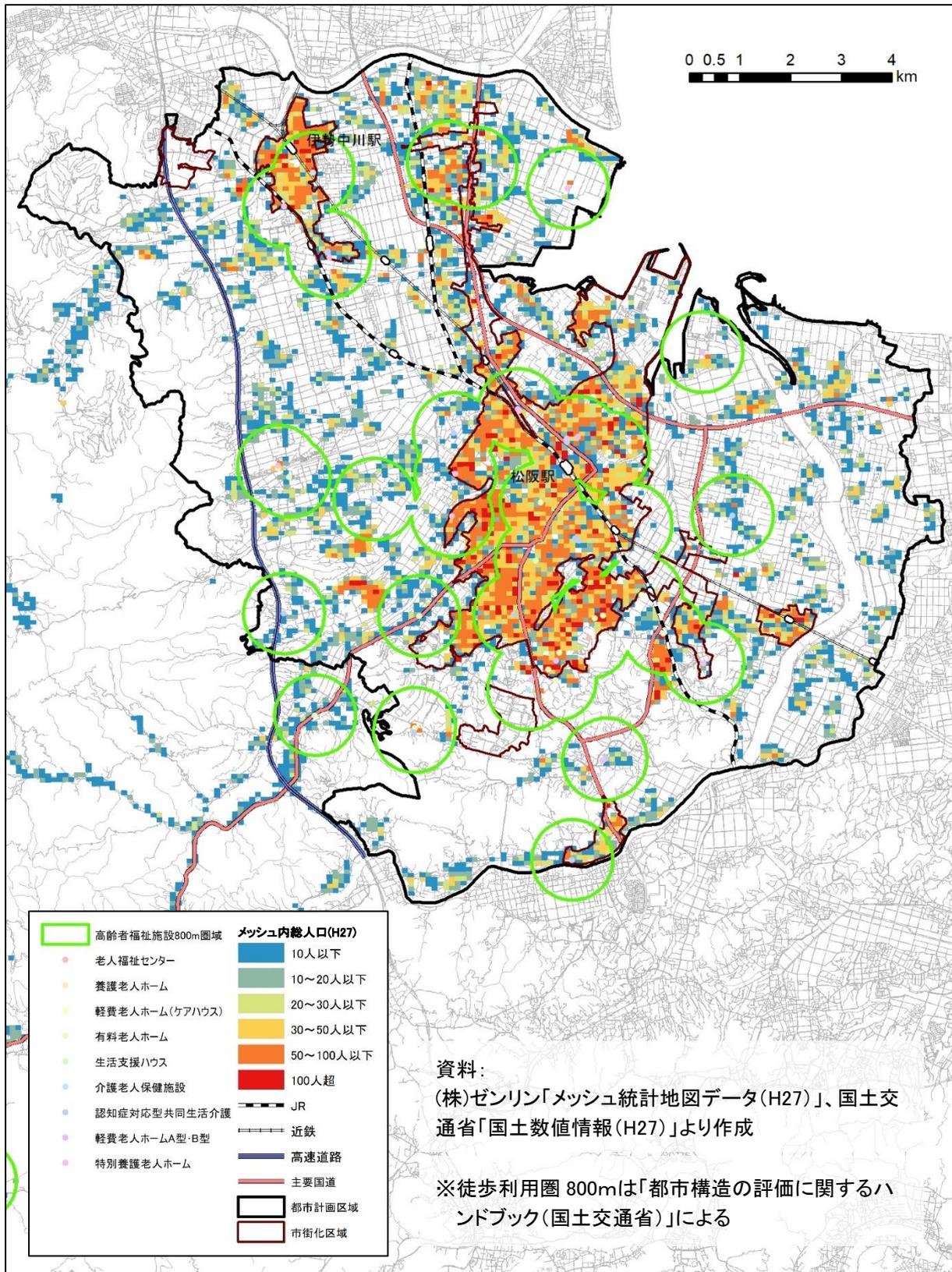
医療施設（病院・診療所）のうち、診療所は概ね徒歩圏でカバーされているものの、病院は徒歩圏でカバーされていない地域が多い。



医療施設(病院・診療所)及び徒歩利用圏域図

③ 高齢者福祉施設（入所施設等）

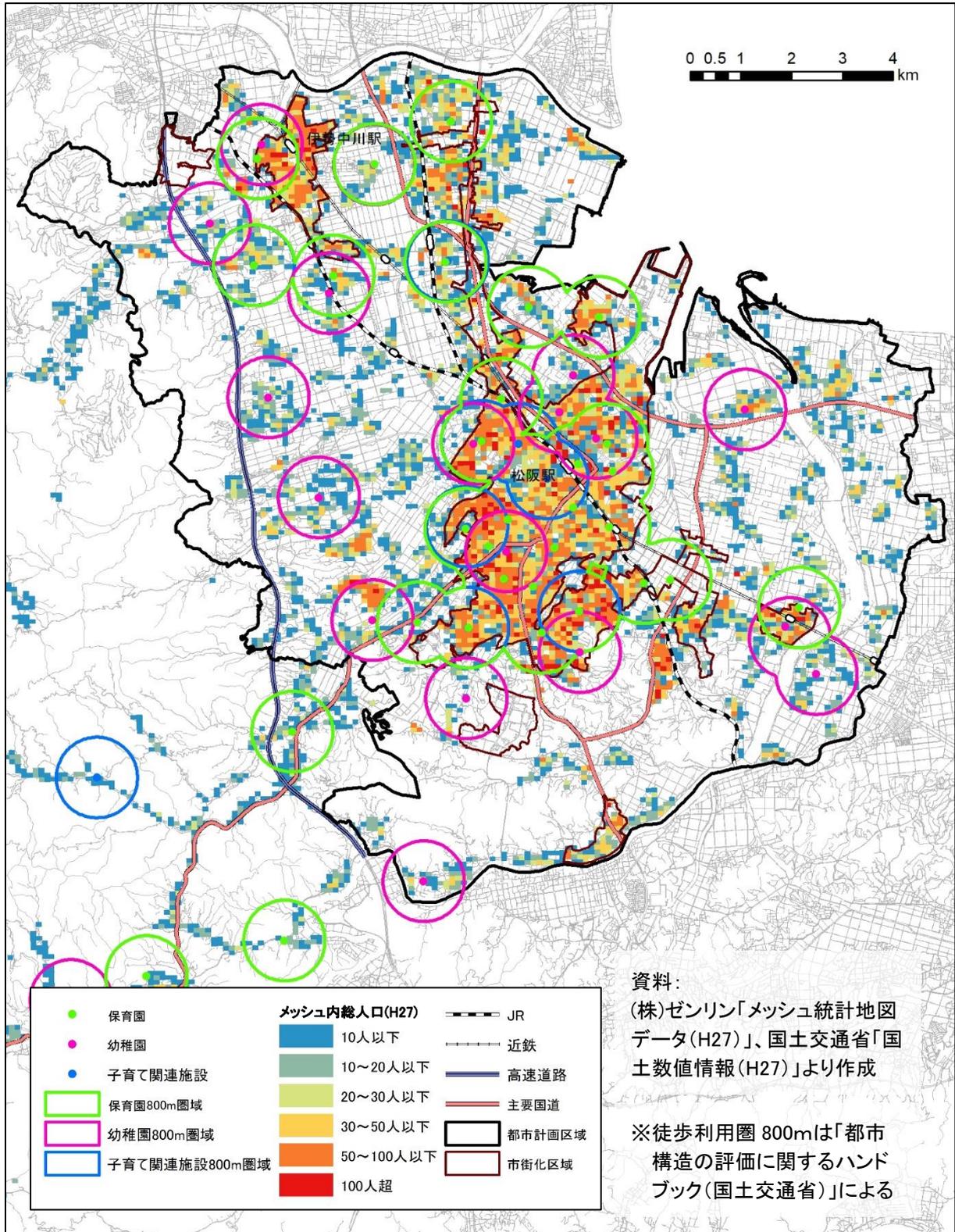
高齢者福祉施設（入所施設等）は、概ね徒歩圏でカバーされているものの、カバーされていない地域もみられる。



高齢者福祉施設(入所施設等)及び徒歩利用圏域図

④ 子育て関連施設（保育園、幼稚園、子育て支援センター等）

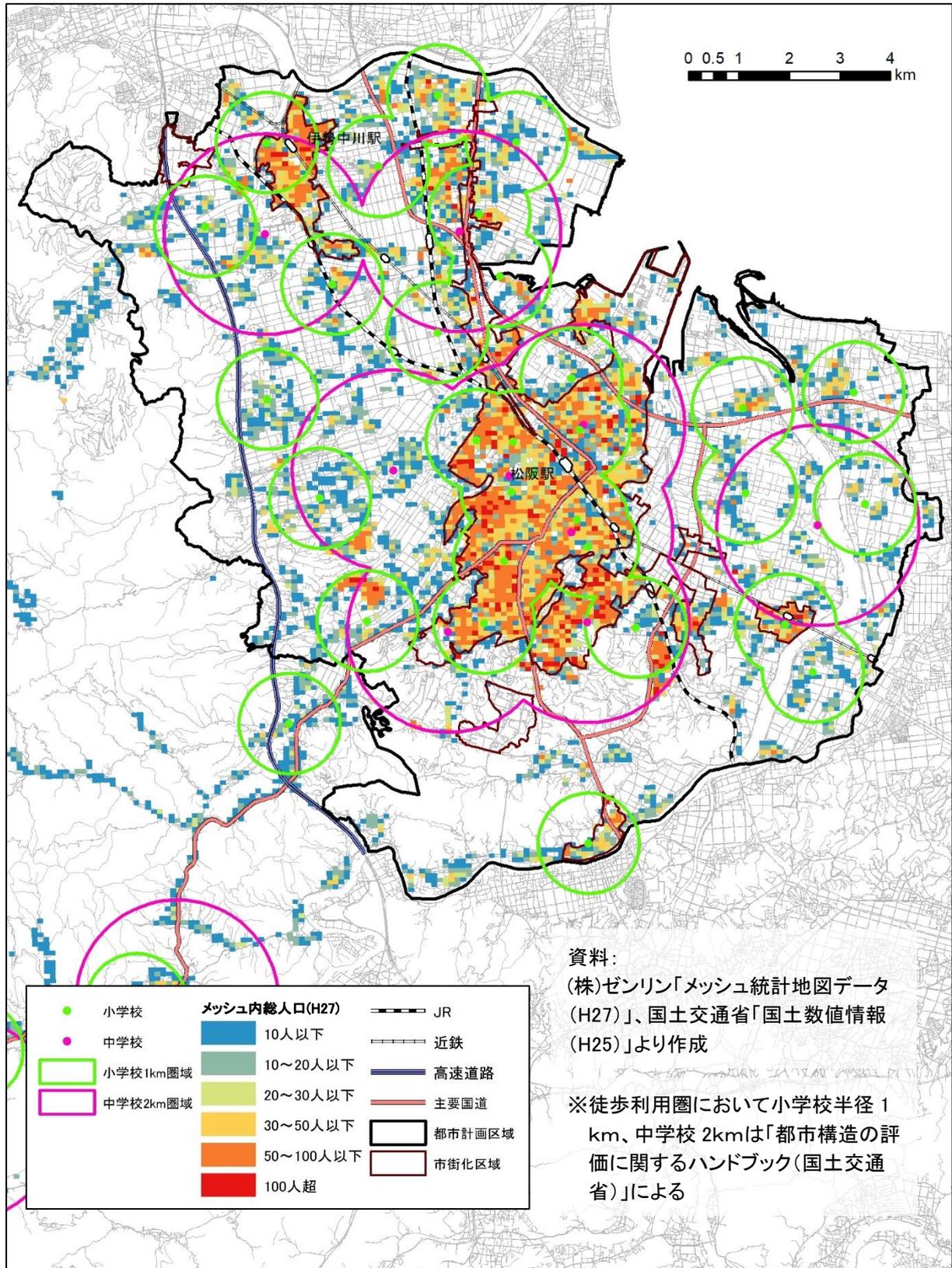
子育て関連施設（保育園、幼稚園）のうち、保育園は概ね徒歩圏でカバーされているものの、幼稚園は徒歩圏でカバーされていない地域もみられる。



子育て関連施設及び徒歩利用圏域図

⑤ 教育施設（小学校、中学校）

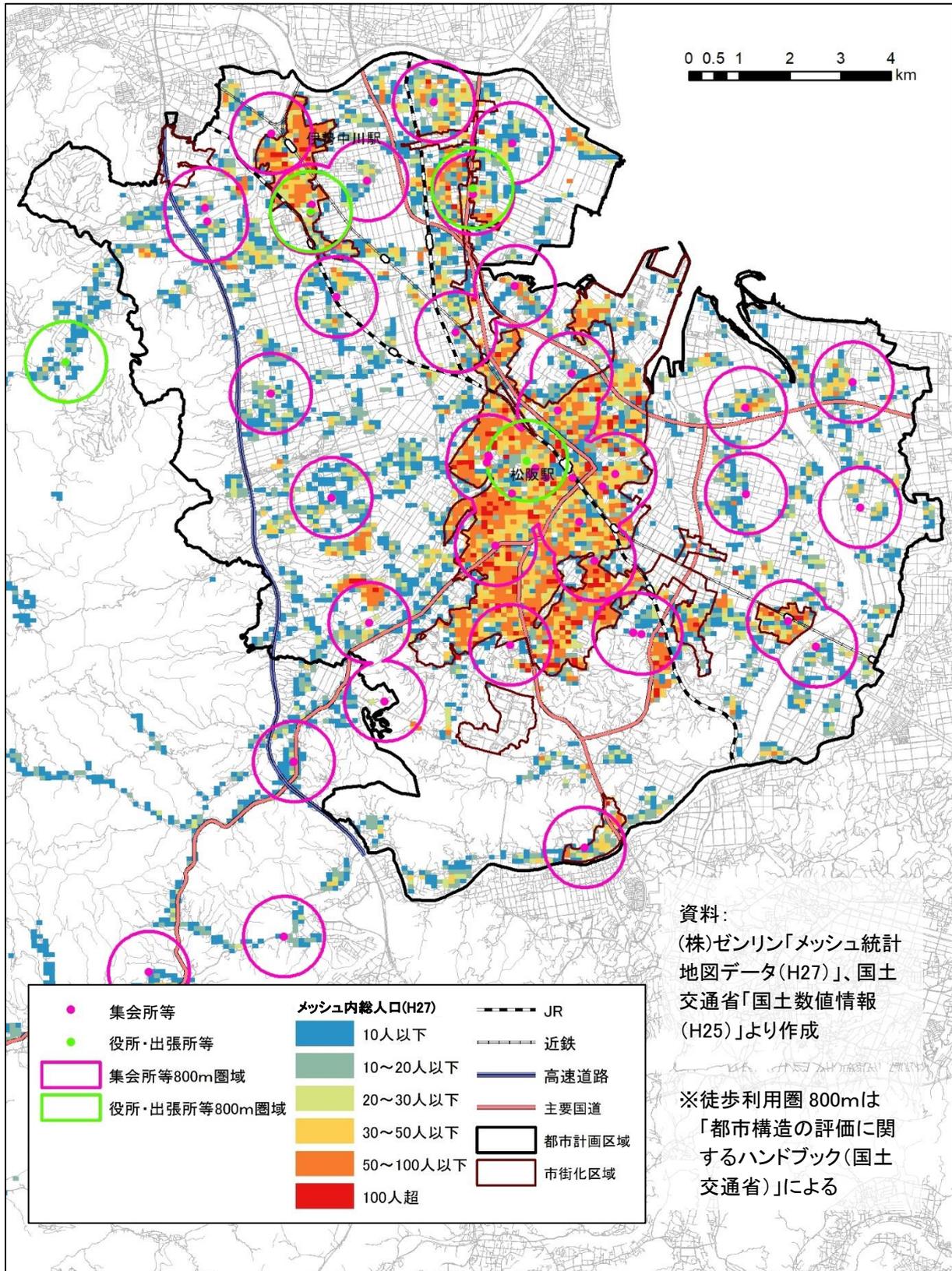
小学校、中学校は概ね徒歩圏でカバーされている。



教育施設(小学校、中学校)及び徒歩利用圏域図

⑥ 文化施設（集会所等（市民センター、公民館・集会施設）、役所・出張所等）

地域コミュニティなどの活動の場となる集会所等は概ね徒歩圏でカバーされている。

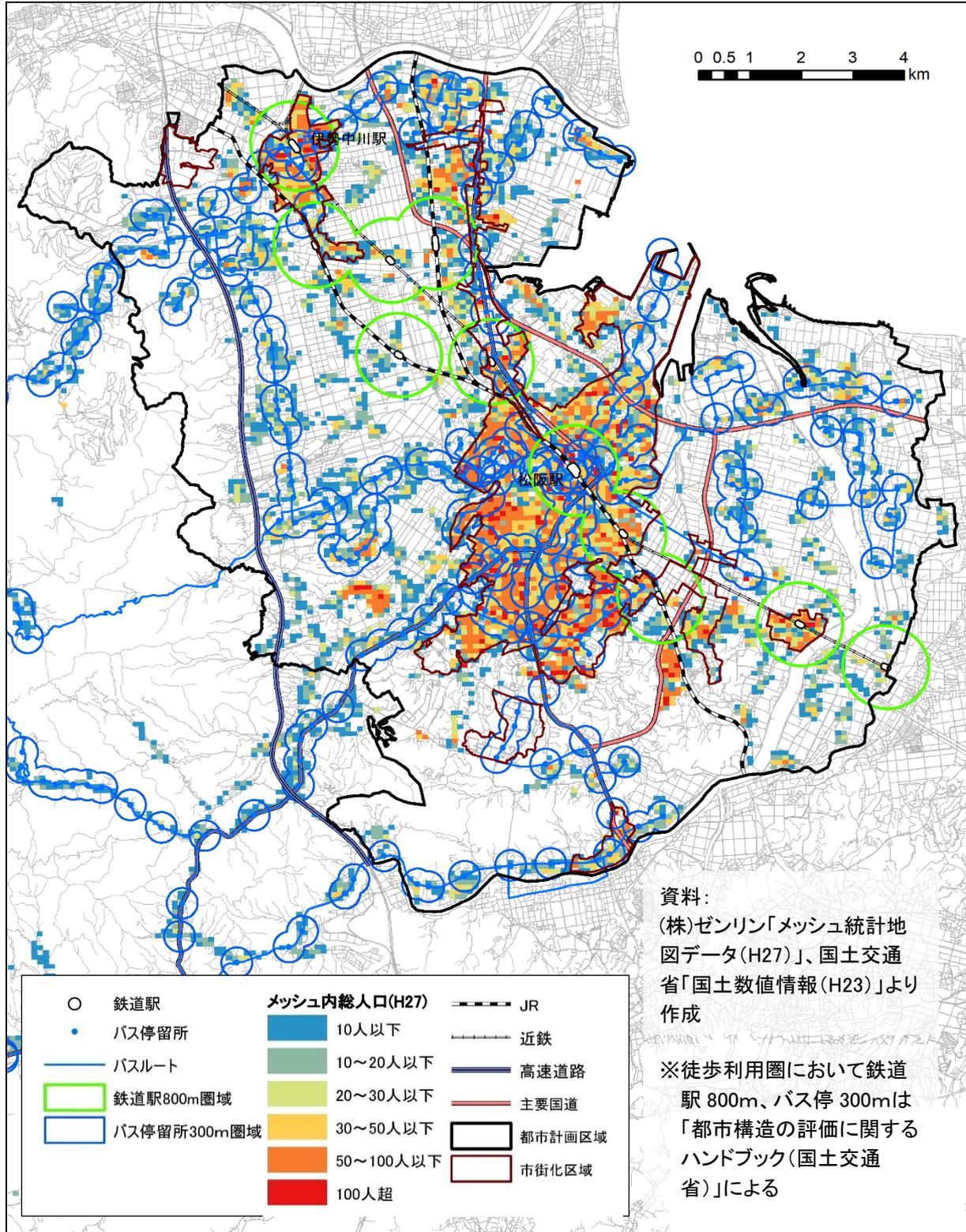


文化施設及び徒歩利用圏域図

4. 交通の分析

① 鉄道駅・バス停

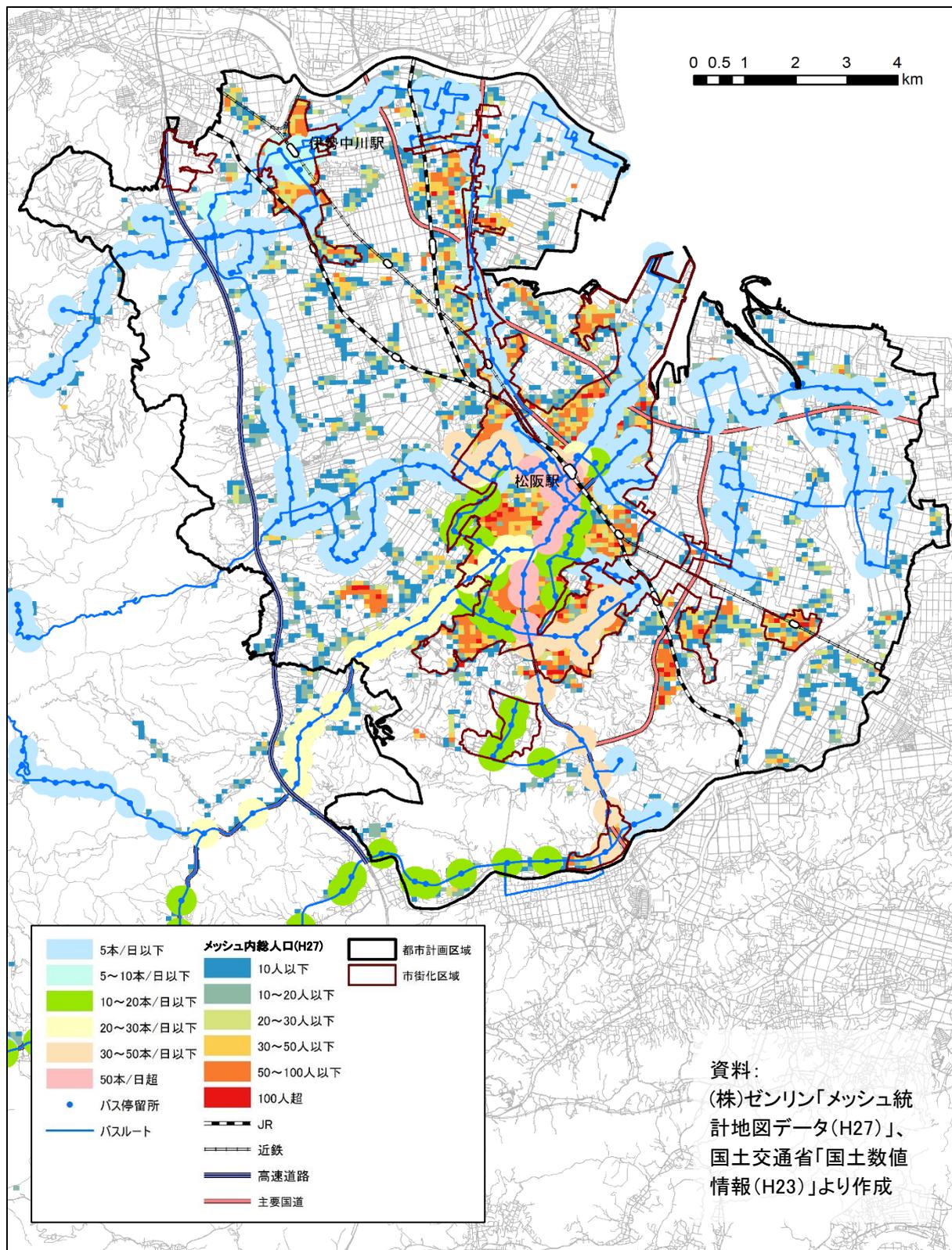
市内に鉄道駅が 11 駅あるなど公共交通に便利な都市であり、鉄道駅、バス停は概ね徒歩圏でカバーされている。松阪駅周辺では一部空白地域がみられる。



鉄道駅・バス停及び徒歩利用圏域図

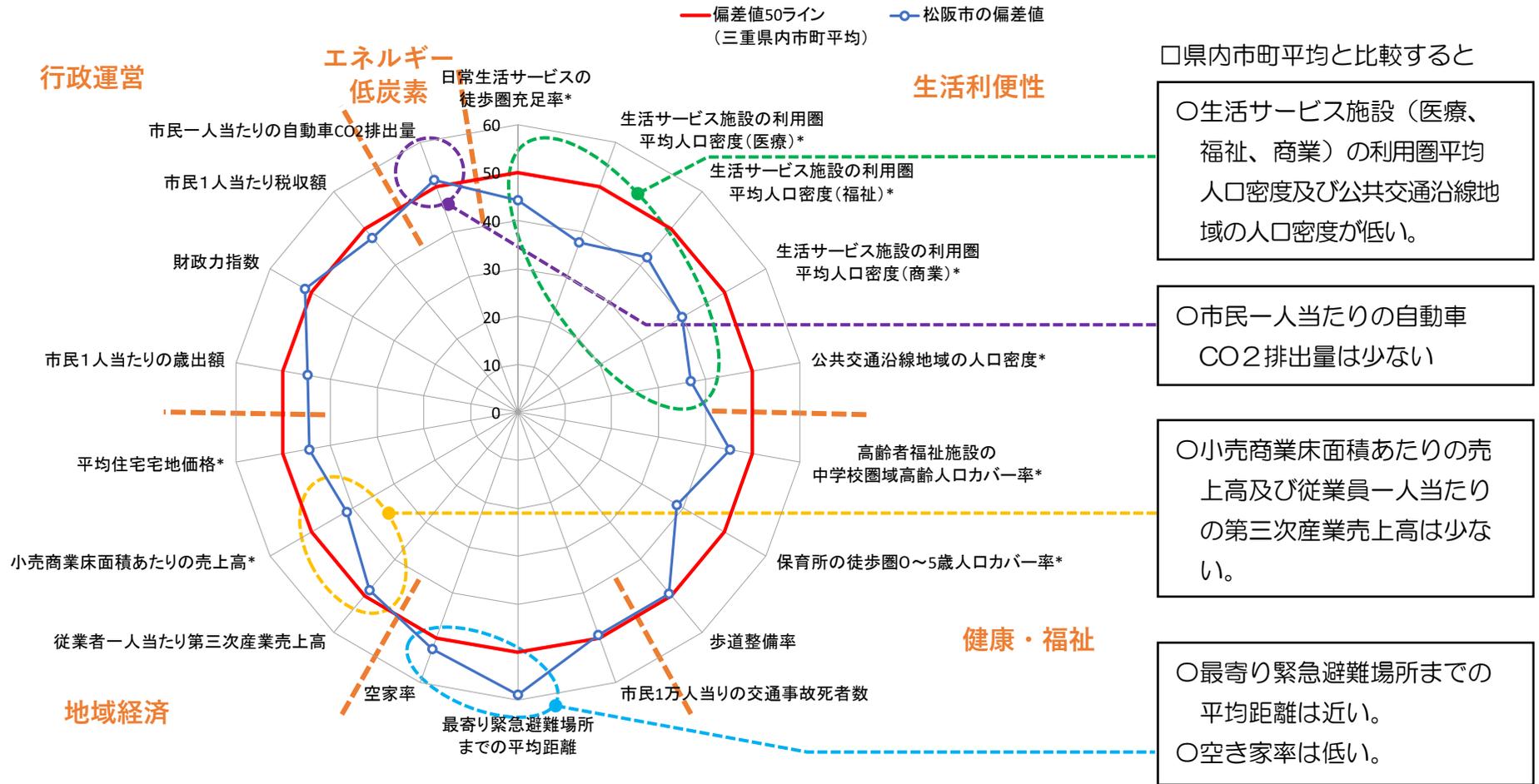
② バス路線とバスの運行本数（平日）

松阪駅から鉄道がない地域にかけて、バスが運行されており、住宅が多い地域にかけては、1日30～50本が運行されている。



バス路線とバスの運行本数(平日)図

5. 都市構造評価



県内市町との比較による偏差値レーダーチャート

資料：都市構造評価指標例データリスト

※各指標について、数値が良くなれば、偏差値は上昇する。

例) 市内の空き家率が下がれば偏差値は向上する。

「*」が付いている指標は、人口10万人以上の市との比較

6. 解決すべき課題の抽出

(1) 現況・分析結果及び住民ニーズの整理

- 本市では、国立社会保障・人口問題研究所による推計において、概ね 20 年後の 2035（平成 47）年で、人口減少、少子・高齢化が加速し、市街化区域では人口密度の低下が見込まれる。人口移動状況を見ると 15～19 歳、40 代～60 代が著しく減少しており、市民意識調査の定住意向からもその傾向がうかがえる。
- 本市の中心市街地である松阪駅周辺では、人口減少、少子・高齢化が一層進むものと予測されており、中心市街地における賑わいの低下は、商業や観光への影響、地域コミュニティなどの衰退が懸念される。市民意識調査のまちづくりの重要度でも、「松阪駅周辺の賑わいの向上」、「来訪者の増加」が高く、中心市街地の活性化が求められている。
- 本市は伊勢湾に面するなど、洪水や津波の被害を受けやすい地形となっており、住み続けたくない理由として、「災害等の危険性が高い場所であるから」が多く、災害に対する安全性の確保が求められている。
- 生活サービス施設については、病院、幼稚園が徒歩圏でカバーされていない地域が比較的多い。「日常生活に必要な商業施設や医療施設が整っていないから」が住み続けたくない理由として多いとともに、鉄道駅周辺等に必要な施設についても、「商業施設」、「医療施設」の意向が高くなっており、これら施設の維持・充実が求められている。
- 公共交通について、鉄道、バス交通は市全体を網羅しているものの、まちづくりの重要度において「交通ネットワークの再編」を求める市民ニーズが高いことから、道路整備とあわせて、更なる利便性の向上が求められている。
- そのほか、まちづくりの重要度において、「空き家・空き地などの対策」、「雇用の場の確保」などが高くなっており、若い世代や中高年世代の流出を抑制するため、生活環境や雇用対策などの取組が求められている。

■課題の整理

	現況と動向、分析結果の概要
1. 人口	<ul style="list-style-type: none"> 2035（平成 47）年において、人口減少、少子・高齢化が加速している。 15～19 歳、40 代～60 代の減少が著しい。（平成 22 年から平成 27 年） 人口集中地区（DID）の人口密度は減少傾向にあり、既成市街地における生活利便施設や交通施設のサービス低下が懸念される。 松阪駅、伊勢中川駅周辺等の市街地では、2035（平成 47）年において、年少人口、生産年齢人口が減少し、人口密度の低下が予測される。 特に、松阪駅周辺では、2035（平成 47）年において、老年人口の増加が予測される。

2. 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> • 空き家が増加傾向にあり、歴史的市街地である松阪駅周辺では低・未利用地が分布している。 • 沿岸部等では、津波浸水深 2m以上の区域が一部市街化区域に含まれている。 • 櫛田川水系や雲出川水系の下流部では、洪水浸水深 0.5m以上の区域が一部市街化区域に含まれている。
3. 都市機能（生活サービス施設）	<ul style="list-style-type: none"> • 病院、幼稚園が徒歩圏でカバーされていない地域が多い。 • 幼稚園、小中学校、集会所は近隣生活圏で概ねカバーされている。 • 高齢者福祉施設（入所施設）は比較的郊外型の立地となっている。
4. 交通	<ul style="list-style-type: none"> • 鉄道、路線バス利用者は近年横ばいの傾向にある。 • 市街地周辺のコミュニティバス利用者は増加と減少を繰り返し、横ばい傾向にあり、更なる利用促進に向けた取組が求められる。 • 松阪駅周辺の市街地ではバス交通の空白地域が存在している。 • 軽自動車の保有台数は増加傾向にあり、交通事故死者数は全国 10 万人都市（267 都市）の中で比較的多い。
5. 住民ニーズ	<p>①市民意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> • 年代が若くなるほど、住み続けたいという意向は低くなっており、30～50 代は 6 割を下回っている。「住み続けたくない理由」は「日常生活に必要な商業施設や医療施設が整っていないから」、「鉄道やバスなど公共交通機関の利用に不便な場所だから」、「災害等の危険性が高い場所であるから」などが高い。 • まちづくりの重要度は、「空き家・空き地などの対策」、「雇用の場の確保」、「松阪駅周辺の賑わいの向上」、「交通ネットワークの再編」、「来訪者の増加」などが高い。 • 生活利便施設への徒歩での移動可能な距離については、「医療・福祉施設」「集会所・公共施設」の 10 分以内が特に高い。 • バスの利用状況は、「利用しない」が 8 割以上と高く、その理由は、「他の移動手段」が最も高く、次いで「近くにバス停がない」「適当な運行ダイヤがない」となっている。20 歳代で「適当な運行ダイヤがない」が他の年代よりも高くなっている。 • 鉄道駅周辺等に必要な施設は、 <u>松阪管内</u>で「商業施設」「災害時の避難所」「医療施設」が高い。 <u>嬉野管内</u>で「災害時の避難所」、「商業施設」、「公園広場緑地」、「娯楽施設・スポーツ施設」、「医療施設」が高い。 <u>三雲管内</u>で「災害時の避難所」、「医療施設」、「商業施設」が高い。 <p>②シンポジウム（平成 29 年 12 月 3 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「買い物」や「動く（交通）」についての意見が多く、買い物については、松阪駅周辺における商業施設の充実、交通については、バスの充実などの意見が出された。

(2) 解決すべき課題の抽出

分析結果等を踏まえ、立地適正化計画で解決すべき、特に重要な課題は、次のように考えられる。

① 若者や子育て世代の減少

本市では15歳～19歳の若者の流出をはじめ、40歳代～60歳代の子育て世代が著しく減少している。若者や子育て世代の流出は、各種サービス施設や公共交通利用者の減少などを招くことになる。

これら世代の人口減少に歯止めをかけるためには、商業、医療・福祉等の都市機能の充実、雇用の場の確保とともに、洪水や津波災害などの災害リスクの少ない区域への居住を誘導し、若者や子育て世代の定住化に取り組む必要がある。

② 松阪駅周辺市街地の衰退

本市では、人口減少、少子・高齢化の進行とともに、市街化区域では人口密度の低下が進んでいる。特に、旧城下町である松阪駅周辺の中心市街地では、将来的には人口密度の著しい低下が予測され、この影響から、都市機能サービスの維持等が困難になることが懸念される。

このまま人口密度の低下が進めば、中心市街地では、空き家・空き地の増加とともに、まちの賑わいが低下することも懸念される。このようなことから、都市機能の向上などにより中心市街地における居住人口の減少を抑制し、歴史的市街地の特性に応じた人口密度を維持するとともに、観光客などの来訪者の増加などに取り組む必要がある。

③ 利用者減少に伴う公共交通サービスの低下

民間路線バスや市運営のコミュニティバスが市内を網羅しているが、中心市街地周辺などの一部の区域では公共交通空白地域がみられる。また、幹線道路沿道における商業機能等の立地による中心市街地の活力低下をはじめ、人口の減少に伴い、周辺地域の生活サービス機能の低下や公共交通サービスの低下が懸念され、中心市街地と各拠点の形成と、これを結ぶ公共交通ネットワークの強化とその利用促進が重要となっている。

(参考) 都市計画マスタープランにおける本市の拠点

都市核	・松阪駅周辺
	・伊勢中川駅周辺
地域核	・櫛田駅周辺
	・射和周辺
	・三雲地域振興局周辺
生活拠点	・小片野周辺 ・飯南地域振興局周辺等 ・飯高地域振興局周辺等
物流・産業拠点	・近畿自動車道伊勢線松阪IC周辺